

■源義経 平家を全滅させた軍事の天才ながら、革命のシンボル頼朝の弟として、悲劇的な最後となり、伝説化した。

みなもとのよしつね

平治の乱・・1159＝

九条院の雑仕女常盤を母に、源義朝の末子に生まれる。頼朝の異母弟。＜平治の乱＞で父義朝が敗死したのち母および2人の兄今若(のちの阿野全成)、乙若(のちの円成)とともに平氏に捕らえられたが、当歳の幼児であったため助けられて鞍馬寺に入れられた。

清盛太政大臣1167＝ 8歳：

厳島神社・・1168＝ 9歳：

・・・・・1174＝15歳： 寺を逃れて、奥州平泉の藤原秀衡の庇護を受ける。

鹿ヶ谷事件・1177＝18歳：

源氏一斉蜂起1180＝21歳： *兄頼朝の挙兵を聞いて奥州平泉より駿河国黄瀬川に参陣。

後鳥羽天皇・1183＝24歳： 源家一門御曹司として処遇され、頼朝の代官として、異母兄範頼とともに平氏追討の大將軍として活躍。頼朝の命で、後白河法皇身辺警護のため、上洛したことが、九条兼実の日記「玉葉」に記載されているが、単なる弟の一人で全く無名だった。

・・・・・1184＝25歳： まず京都にいた木曾義仲を討ってこれを近江に倒し、都の覇権をにぎった。ついで*平氏軍を、鴨越の奇襲で、一ノ谷に破ってその入京の勢いをとめ、京都において、一躍有名になり、京を守る検非違使に任じられる。兄頼朝が、平氏が抑えてしまった天皇の身と三種の神器の確保を一番に、長期戦を覚悟する間、飢饉によって、都では餓死者が続出、平氏追討の範頼軍の兵糧米も尽きてくると、市民を救うべく、兵糧米を停止して、戦を早く終えようと短期決戦を企図、頼朝に独断で、後白河法皇を説得して、認められ、

平氏滅亡・・1185＝26歳： *屋島の平氏軍を襲って大勝、海上にのがれた平氏軍を、これまた独断で、追って関門海峡の壇ノ浦に戦い、これを全滅させるに至る。天皇と神器を失ったことで、頼朝の怒りを買うも、事後承認され、一躍英雄として都の内外の人々にもてはやされるが、平氏追討戦の間に、関東御家人と対立したばかりでなく、後白河上皇の頼朝・義経離間策にのせられて、頼朝の認可をまたずに、法皇直属の警備長ともいえる御厩司になったため、朝廷とは切り離された武家支配をめざす頼朝の逆鱗に触れ、刺客を送られ、逃げ延びると、叔父行家と結んで、後白河法皇に強要して頼朝追討の院宣を得るが、従う武家はほとんど無く、失敗。後を汚すことなく、平然と京都を去り、西海にのがれようとして摂津の大物浦に船出したが難破、畿内一帯に潜伏して行方をくらまし、やがて奥州にのがれて藤原秀衡の庇護を求めた。九条兼実は、日記「玉葉」に、「義経大功をなし、詮なしといえども、武勇と仁義においては、後代の佳名を残すものか」と、わずか2年前には無名だった義経が、伝説化するまでの人物になったことを記している。

九条兼実摂政1186＝27歳：

藤原秀衡没・1187＝28歳： しかし秀衡の死後、頼朝の圧迫に抗しえなかった子の泰衡によって、

奥州藤原滅亡1189＝30歳： 衣川の館を襲撃され、妻子とともに自害した。